

吾妻山の火山活動解説資料（平成 22 年 11 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

大穴火口の噴気活動はやや高い状態が続いています。火山性地震は 11 月上旬までやや多い状況で推移しましたが、中旬以降は少ない状況となっています。

地殻変動に特段の変化はなく、ただちに火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。引き続き、火口内では火山ガスの噴出がみられますので警戒が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2～3）

上野寺（大穴火口の東北東約 14km）に設置してある遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）からの噴気の高さは、50～700m で推移し、噴気活動はやや高い状態が続いています。

・地震や微動の発生状況（図 4）

火山性地震は、9 月以降 11 月上旬までやや多い状況で推移しましたが、中旬以降は少ない状況となっています。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 5～6）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は観測されませんでした。

・火山ガスの状況（図 7）

8 日に実施した現地調査では、大穴火口からの二酸化硫黄放出量は一日あたり 200 トンで、前回（2010 年 7 月 23 日）の 100～200 トンと同程度の火山ガス放出が続いています。



図 1 吾妻山 観測点配置図

（小さな白丸は気象庁観測点位置を示しています。）

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 12 月分）は平成 23 年 1 月 7 日に発表する予定です。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。



図 2 吾妻山 大穴火口からの噴気の状態 (11 月 27 日 06 時 30 分頃)
 福島市上野寺 (大穴火口から東北東約 14km) に設置した遠望カメラによる。
 大穴火口からの白色噴気の高さは一時的に 700m。

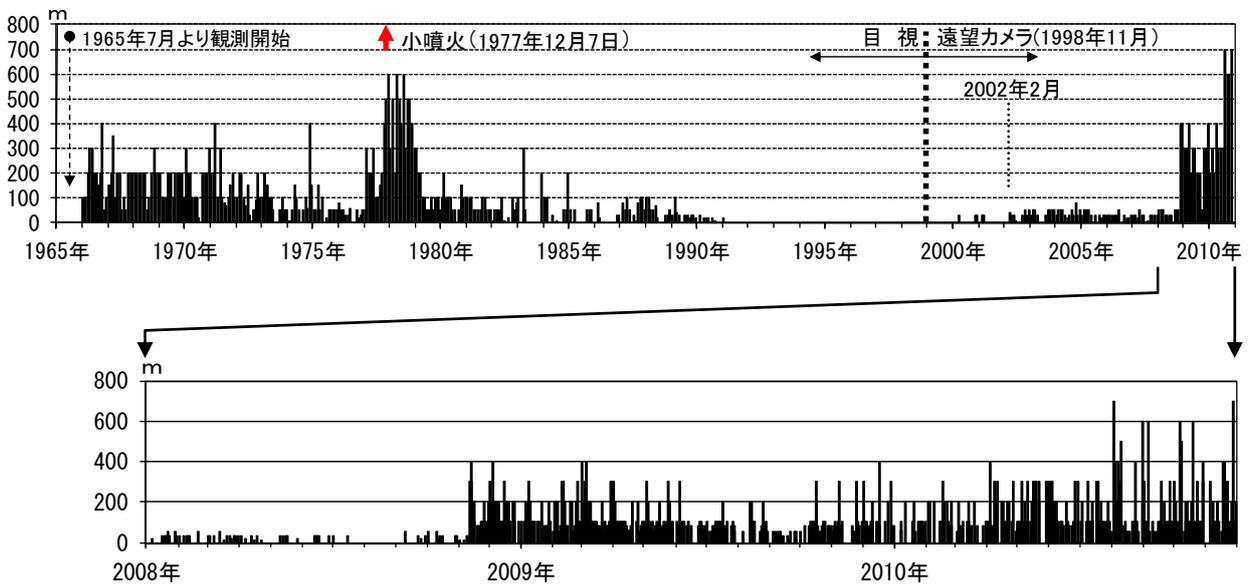


図 3 吾妻山の噴気の高さ 上段：月別最大噴気 (噴煙) 高 (1965 年 7 月～2010 年 11 月)
 下段：日別最大噴気高 (2008 年 1 月～2010 年 11 月)
 1998 年以前は福島地方气象台 (大穴火口の東北東約 20km) からの目視観測です。
 1998 年から遠望カメラ (大穴火口の東北東約 14km) による観測です。
 2002 年 2 月以前は定時 (09 時、15 時) 及び随時観測による高さです。
 2002 年 2 月以後は全ての時間で観測したデータによる高さです。
 2010 年 8 月 3 日、11 月 27 日に一時的に 700m、8 月 31 日、9 月 5 日、10 月 6 日、18 日に一時的に 600m を観測しました。

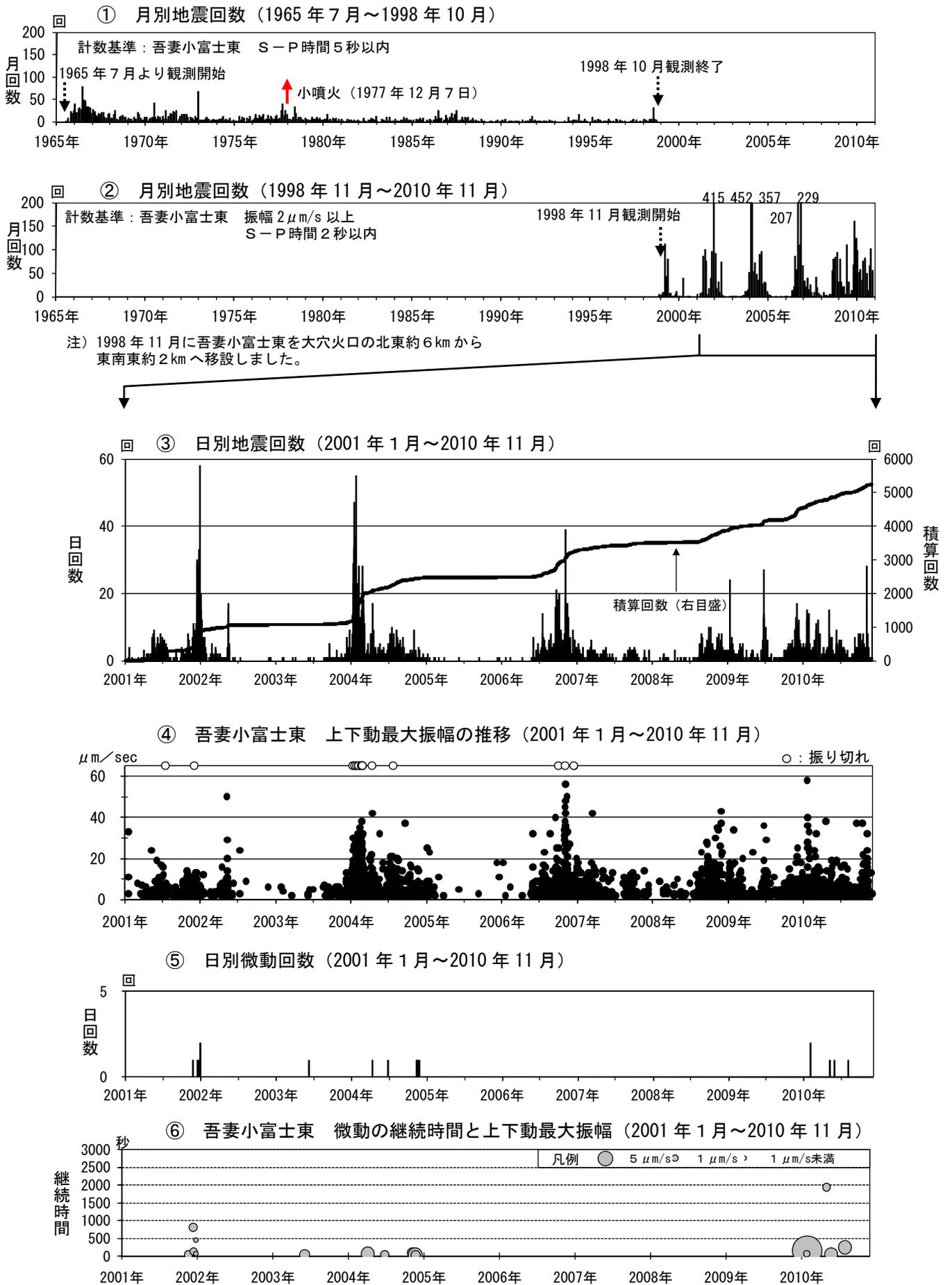


図 4 吾妻山 地震活動経過図

機器障害のため、2010 年 10 月 14～15 日の日別地震回数は欠測です。



図5 吾妻山 GPS 観測点配置図
GPS 基線①～④は図6の①～④に対応しています。

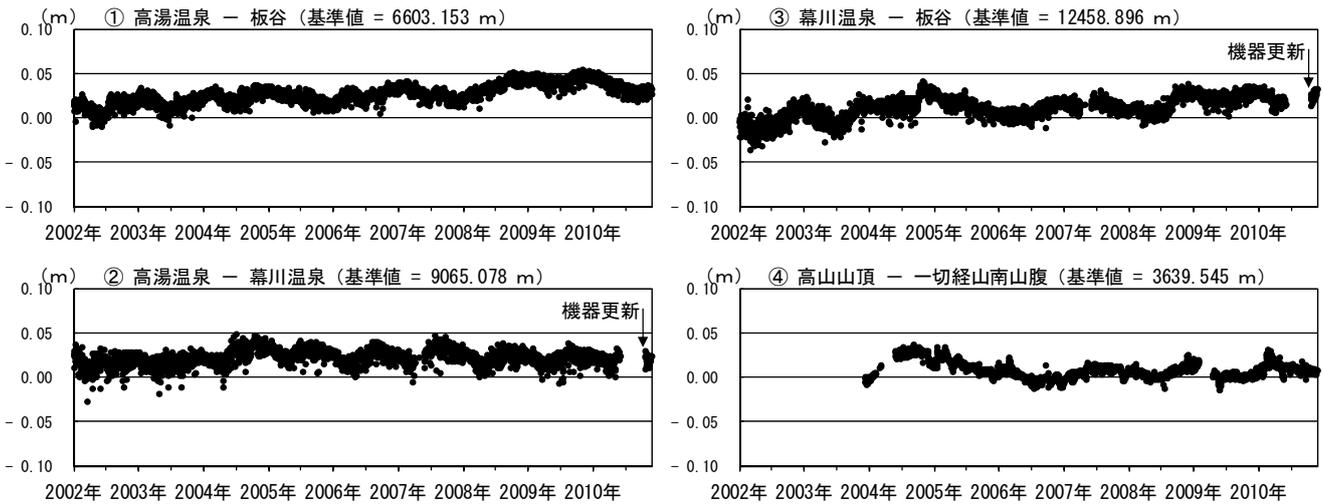


図6 吾妻山 GPS 基線長変化図（2002年1月～2010年11月）
①～④は図5のGPS基線①～④に対応しています。
グラフの空白部分は欠測を表しています。

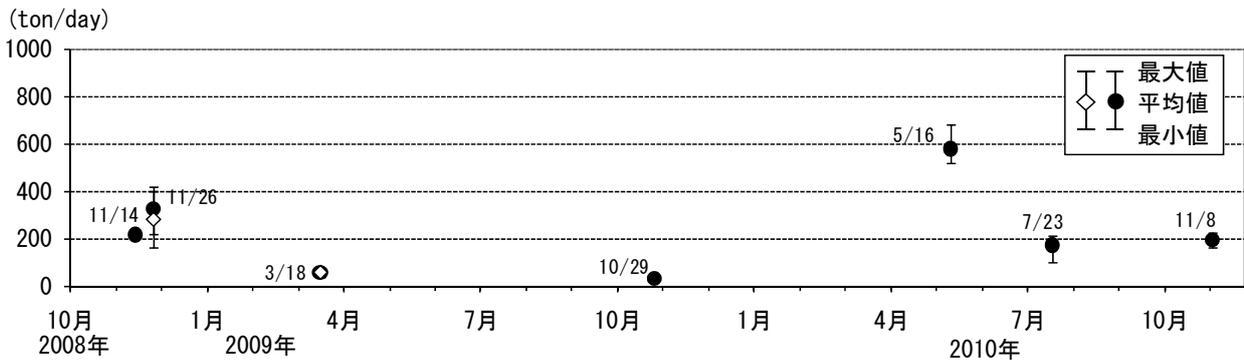


図7 吾妻山 二酸化硫黄の放出量（●：トラバース法、◇：パニング法）¹⁾
1) 火山ガス（二酸化硫黄）観測は、二酸化硫黄が紫外線を吸収する性質を利用し、噴煙を透過した紫外線の吸収量を測定することにより二酸化硫黄の量を求める。